相馬市飯豊地区

1　想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 大豆・小麦の輪作体系を適正に実施し、適期作付、管理の徹底により、小麦の品質向上を目指す
- 小麦新品種「さとのそら」の現地実証ほを設置し、調査を実施する
- 関係機関と連携して「さとのそら」の栽培暦を作成し、そうま地域の「さとのそら」生産者へ周知と普及拡大を行う

2　生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【R3作付面積】水稲:14.8ha、小麦:21.3ha、大豆:47.2ha、ブロッコリー:0.8ha
- 東日本大震災の翌年（H24）に法人設立。相馬市の津波被災地を中心に作付け
- R5小麦作付け面積は20.5ha
- 大豆２年、小麦１年のブロックローテションを実施（大豆→大豆→小麦）
- 小麦は、省力化技術「立毛間播種」に取り組む

「さとのそら」実証ほ場

3　取組のポイント（モデルとして構築する取組）

＜品目別のブロックローテションを実施＞

- 大豆・小麦のブロックローテーション実施により、雑草の発生抑制・大豆連作回避により品質向上

＜需要に応じた生産・普及拡大を実施＞

- 作付けする品種は実需の動向を考慮し、新品種をいち早く導入
  大豆はH30年に「タチナガハ」から「里のほほえみ」へ、小麦はR5年に「きぬあずま」から「さとのそら」へ全面積で品種転換
- Ｒ３～５年にかけて、JA主体に「さとのそら」実証ほを設置
  JA全農、JAふくしま未来そうま地区本部、浜地域研究所、相双農林普及部で連携して、実証ほのデータを収集。実証ほデータを活用して、管内生産者へ栽培指導、普及拡大を実施

4　取組成果

＜小麦生産の高位安定化を実現＞

- ブロックローテーションの実施により、高品質を維持
  （上位等級（１、２等）比率　Ｒ３：92.5% → Ｒ５：88.4%）

＜小麦新品種「さとのそら」の普及拡大＞

- 関係機関で連携して、そうま地域「さとのそら」栽培暦（ver.1）を作成
- そうま地域の「さとのそら」及び小麦生産者を対象に勉強会を開催
  小麦の情勢、「さとのそら」実証ほ・浜地域研究所研究の結果を共有及び栽培暦による栽培技術を周知

「さとのそら」栽培勉強会

5　課題（6年度のポイント）

- 「さとのそら」栽培暦をもとにした指導を実施し、収量・品質向上に繋げる。
- 関係機関と連携して、小麦生産者に対し、指導会等で「きぬあずま」から「さとのそら」への作付け転換を呼び掛け、「さとのそら」の面積拡大を図る。